

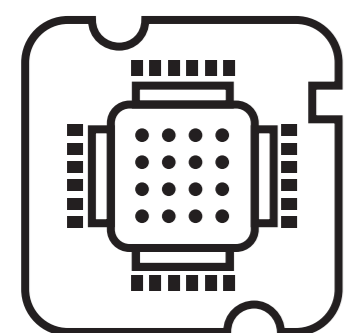
「expist® IoTA」とは

あらゆるIoT機器に搭載可能な「IoT機器向けセキュリティミドルウェア」です。

セキュリティ課題



暗号化せず、平文のままデータを送ってしまっている (情報漏洩の課題)



デバイスのHWスペックが低すぎてセキュリティ対策を講じることが難しい



鍵の管理や漏洩のリスク、長期運用による暗号危殆化のリスクを抱えている

「expist® IoTA」で解決

- 量子計算機による危殆化に対応出来ると期待される「256bit ブロック暗号機能」を導入
- 低スペックHWでも快適動作を実現
- 特許出願の秘密分散法と暗号機能の組み合わせで情報漏洩のリスクを排除

「expist® IoTA」特徴とHW領域

3つの特徴

軽量暗号 (SPECK)

IoT機器に適した暗号技術を実装

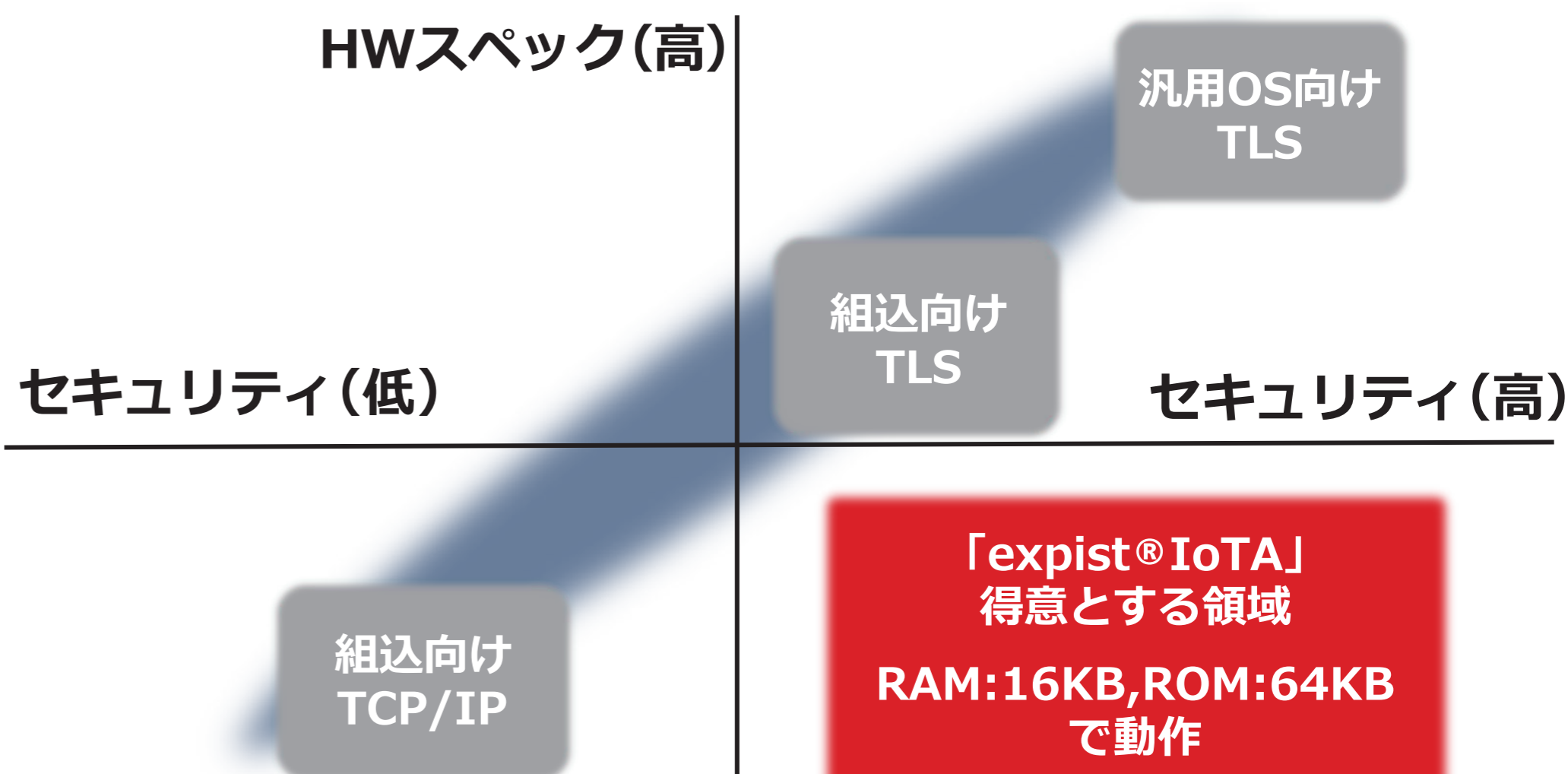
秘密分散法

強固な情報漏洩対策

低CPU上で動作

対象HWを選ばない

<HWスペックと expist® IoTA が得意とする領域>



HWを選ばず、データ漏洩しても完全性が無い限りデータの復元ができない

「expist® IoTA」機能とモジュール構成

機能

- UDP上で動作する独自プロトコル
- 軽量暗号サポート
- AONT による秘匿性向上
- 通信レジューム
- マルチセッションmTCP対応
- MQTT サポート
- パケット全体の暗号化
- Rust によるセキュア実装
- ISO 26262, ISO21434 対応(予定)

